

平成23(2011)年10月1日第106号

学校だより

運営委員長

退任にあたり

川瀬裕司

(三井物産)



私は縁あって、この3年間、ヒューストン日本語補習校の運営委員長を務めさせて頂きました。この度、約5年間の駐在を終え、日本に帰国することになりました。補習校、商工会の活動を通じて多くの方にお世話になり、仕事以外でも多くの方と充実した時間を共有させて頂けたことに心より感謝しております。

ヒューストン日本語補習校は多くの方がおっしゃる通り、教育レベルが高く、そして素晴らしい補習校だと思います。アメリカの他の大都市と違って、ここヒューストンでは日本人学校も塾もなく、日本の授業を受けることが出来る学校と言えここ補習校だけです。そのせいか、保護者も子供達も心に余裕を持って、そして補習校を信頼して通っているように思います。そして、教育レベルの高さは、中島校長先生を初めとして、教職員の方々の日々の努力のお陰に他なりません。校長先生から教職員の方々への徹底した学習指導や、他の教師の授業を見学する研究授業など、日夜たゆまぬ努力を繰り返されている先生方の姿には頭が下がります。

また、ヒューストン補習校の魅力のひとつには、宇宙飛行士の皆さんとの交流も挙げられます。『宇宙に一番近い補習校』として、宇宙をより身近に感じられるヒューストンならではの貴重な体験は、子供たちの将来の夢、ものの考え方に大きな影響を与えてくれることでしょう。私の息子は小学2年生から6年生の終わりまでの約4年間、この補習校でお世話になりましたが、ここでの経験がかけがえのない財産となっています。

最後になりましたが、ヒューストン日本語補習校を支えて下さっている中島校長先生、教職員並びに事務の皆様、運営委員の皆様、保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後共、ヒューストン補習校が、『学びたい学校、学ばせたい学校、学んで良かった学校』であり続けるよう心より願っております。

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077
Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6795 (事務局 火~金曜日)
Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

運営委員長

就任にあたり

前田光治

(三菱商事)



10月1日より、川瀬委員長の後を継いで補習校運営のお手伝いをする事になりました。本校では350名を超える大切な園児・生徒をお預りし、教科学習だけではなく全人格的な指導を行うことを目標としており、運営委員会は裏方でその教育環境を整備し維持するという役割を担っていますので、これは大変な任務を引き受けてしまった、というのが正直な感想です。それと同時に、教員各位の熱心な指導や多くの子供たちが週末の補習校を楽しみにしている様子を見てきて、やり甲斐には事欠かない仕事と思っていますし、校長の目指す「世界一の学校」に近付けるよう無い知恵を絞って取り組んでいきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、就任にあたり、ごく一部ですが9名で構成する運営委員会の課題に触れたいと思います。まず、自前の校舎の無い本校にとり、児童・生徒が安心して過ごせるスペースの確保は存続の基盤です。ある方から、必ずしも安全と言えない校舎を借りた時期もあったと伺いました。現校舎の賃借に差し迫った心配はありませんが、継続して使用できるよう関係者のご協力も仰ぎつつ慎重に対応していきます。また、意欲ある教員と児童・生徒が高い目標を掲げても、インフラが不備であれば達成は覚束ないかも知れません。予算の制約から全てという訳にはいきませんが、現場の声を丁寧に拾い上げて何が必要か見極めていきたいと思っています。もうひとつは校長の方針でもありますが、帰国する生徒の進路選択の幅を拡げることです。子供たちには計り知れない苦労があるはずですが、多感な時期に言語も違う異文化の中でサバイバルを経験した児童・生徒は、社会の財産となる可能性を秘めています。こうした貴重な人材の進路選択に貢献できるよう、引き続き進学先との連携強化等にも注力します。

最後になりましたが、長きに渡り補習校の発展に尽力され、今回帰任されることとなった川瀬(続・次頁)

委員長、今村委員に心から敬意を表したいと思います。運営委員会では1年半のお付き合いでしたが、課題の大小を問わず最適解を見出そうと全力を尽くす姿は、同じ社会人あるいは大人として尊敬に値するものでした。長い間本当にお疲れ様でした。

川瀬さん・今村さんありがとうございました お礼の言葉に代えて・・・

学校長 中島 満

この度、駐在を終えてご帰国となる川瀬裕司運営委員長様には、補習校教育に対して筆舌に尽くせないほどご尽力を賜りました。

ヒューストン日本語補習校の設置母胎はヒューストン日本商工会ですが、運営主体はヒューストン日本語補習校運営委員会です。

川瀬裕司氏は平成20年度は副委員長として、そして21年度から3期3年の永きにわたり、委員長として補習校教育の充実のために粉骨砕身の努力を傾注されました。高い見識と豊かな教養、溢れるばかりの情熱を持って本校を支え続けてくださいました。

私は「学びたい学校、学ばせたい学校、学んで良かった学校」創造を目指し、そして「世界一の日本語補習校」の創造を期して現在に至っています。その願いの達成に向けて共に歩を進めてくださいました。今後とも、川瀬裕司氏の教育に寄せる愛情と情熱をしっかり継承し、ヒューストン日本語補習校を守り育てたいと決意する次第です。

どうぞ、ご帰国後にありましても健康維持に留意され益々のご活躍を祈念すると共に、今後とも本校に対するご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

今村尚道運営委員様には、職員担当委員として、教職員の採用等、人事関係を中心にご尽力を賜りました。温かみの中に冷静なる判断力を発揮されました。

今村氏も駐在を終え、ご帰国となりました。数々のご支援に厚く感謝申し上げますと共に、ご帰国後におきましても本校をご支援くださいますようお願い申し上げます。

どうぞ、ご健勝にてご活躍されますようお願い申し上げます。

次期運営委員長となります前田光治氏にありましては、副委員長からの就任です。常に冷静沈着にして適切な判断をされる方です。本校の園児、児童生徒のための更なる教育環境の整備と拡充に敏腕を奮ってくださいます。教職員一同、心一つにして補習校教育の充実尽力する所存です。今後ともよろしくようお願い申し上げます。

前期終業式・後期始業式

9月24日(土)の昼食後、掲題の儀式をカフェテリアで挙行了しました。午前中4時限を5分ずつ短縮の日課に変更、昼食後の休憩時間も少し短縮し、授業を欠かすことなく行いました。



儀式では、始めに高等部生徒4名が「集いの歌」を掲げ、全員で斉唱しました。

次いで、私が学校長式辞として、前期の頑張りを讃え、後期への力強い学習活動を期待する旨話しました。園児、児童生徒の代表は、後期への意欲を表明しました。以下、その表明を掲載します。

星組 村田茉優 (むらた まゆ・山田学級)



私は、補習校幼稚園に入ってから、お友達がたくさんできました。お友達と水遊びをしたのが楽しかったです。縄跳びも上手に跳べるようになりました。1年生になるまでに漢字で名前が書けるようになりたいです。

宙組 稲森康太 (いなもり こうた・若槻学級)



幼稚園ではお絵かきをすることが楽しいです。縄跳びも上手になりました。ひらがなも、もっと上手に書けるようになりたいです。

小5B 前田ありさ (和田学級)



前期の一番の思い出は日本への一時帰国でした。行って色々な体験をしてきました。

2週間の体験入学、宿泊体験、山登り、旅行にも行ったり、友達と初めて二人でお買い物にも行く事ができました。どれも今考えるとすてきな思い出です。この様な体験ができたのも、補習校でがんばっているからだと思っています。

私はアメリカで生まれて育ちました。ふだんは家以外で日本語を話す事はほとんどありません。でも、毎年の日本行きはとても楽しみです。特に体験入学は、アメリカの学校とは全然違う体験ができるので、一番の楽しみです。(3頁に続く)

体験入学を楽しむためにも、日本語の勉強は大切にしています。日本語の勉強で一番大変なのは漢字です。特に漢字検定の勉強は、知らない言葉がたくさんあるので悲しくてなみだが出ることがあります。でも日本にいるお友達と遊ぶためにも、体験入学が楽しく過ごせるようにするために大事だとがんばっています。

今日で五年生が半分終わりました。これからも続くワクワクがキラキラした思い出になるように努力したいと思います。

後期に向けて

中2A 五十嵐 律・大熊 一誓 (宗吉学級)



10月1日から後期が始まります。後期は前期に学んだことを次のステップに進める良い機会であるとともに、学年のしめくりとなる学期でもあります。

中学部は、さらなる自己啓発を求めて大いに努力していきたいと思います。



後期に向けての決意

中1B 村上弘樹 (佐藤学級)

来週で前期が終わります。小学校のときとは違い、とても長く感じました。自己評価としては、5点満点として3ぐらいでした。中間や期末は思ったより点が取れませんでした。ぼくの後期の目標は、宿題を少しずつやっていくことです。前期では、いつも金曜日に殆ど終わらせていました。それでいつも金曜日の夜、おそくまでおきていました。漢字もそうでした。金曜日だけ練習して、結果出せませんでした。だから漢字も毎日、二回ずつ書いて出来るだけ点を取っていきたいです。

中1B 藤田芽依 (佐藤学級)

私は前期を振り返ってみると、速くて短くて忙しかったなと思います。初めての中間テストに期末テスト、校内漢字検定がありました。期末テストでは点数が上がってうれしかった教科と、点数が下がってしまった教科があったので、次回のテストではできるだけ全部の教科の点数を上げたいです。そのために毎日少しずつ勉強して、テストに備えようと思います。後期も多分前期と同じようにあっという間に時間が過ぎてしまうと思うので、その時間をむだにせず、大切に使えるようにしたいです。これからは現地校でもテストなど

が多くなり、補習校の勉強と現地校の勉強を両立するのがもっと大変になると思いますが、どちらでも良い結果が残せるようにしようと思います。

— 今 教室では・・・ —

中学部国語科1年では平和教育の教材（「大人になれなかった弟たちに…」）を扱い、その際、生徒が書いた「戦争で一番苦しいこと」について掲載します。

戦争で一番苦しいこと

中1B 木下颯乃 (佐藤学級)

私は小学生のときに、戦争体験者の話を聞いたことがあります。

その人はたまたまお母さんと家から遠くへ離れた所まで出かけていました。その間にその人の家周辺が空襲に狙われ、町破壊野原で、お兄さんは亡くなり、お父さんは重傷を負っていました。お父さんは病院に入院しました。病院といっても、大怪我をした人たちがただ床に並んでいたといいます。そして何もしてあげられないまま、お父さんも亡くなってしまったそうです。その人は苦しんでいる父を、薬も何もなくて、見ていることしかできなかったことがとても辛かったと言っていました。

私はこの話を聞いて、戦争の時代に生まれていたら、家族が死んでしまうことが一番苦しいと思いました。理由は三つです。一つ目、私が今両親をなくしたら、親せきの家に行くことができると思います。けれどそれが戦争時代の話だったら、私は生きていけないと思うからです。二つ目は、苦しんでいる自分の家族の手当てをしてあげられないことです。きっと自分が殺してしまったというような気持ちを抱くと思います。三つ目は、自分を支えてくれていた一番身近な存在の人がいなくなってしまうことです。

私は、日本に戦争はなくても、同じようなことは沢山起きていると思います。例えば殺人事件です。人が亡くなるのは誰にとってもいやなことです。なのに相手の気持ち、さらにはその人の友人や身内のことを考えずに行った結果が事件につながったのだと思います。私はいやなことがあるとすぐに怒ります。それも自分の気持ちだけで相手の気持ちを考えなかったからです。なので私は相手の気持ちを考えるようにしたいです。

私は戦争をなくすには、世界の人々が相手の気持ちを考えるようにすべきだと思います。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ SAPIX 進学説明会を開催



9月24日(土)掲題の説明会が、9時過ぎから補習校図書室で開催されました。SAPIX から加藤大祐氏、篠崎正人氏が来校され、入試情報について丁寧且つ細部にわたり説明されました。また、説明会に引き続いて個別相談も開催され、わが子の進路選択について真剣に相談されていました。今後の進学等説明会の予定は、10月7・8日がINFOE(案内済み)、1月21日(土)が河合塾の予定です。多くの方のご来場をお待ちします。



